SOWER

ソア＝種まく人

No.35
March 2010
財団法人
日本聖書協会

特集 **新しい聖書翻訳事業に向けて**

次世代のために美しい日本語訳聖書を

SOWER ソア No.35

2010年3月1日発行
［年2回発行］

発行・財団法人 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5-1 聖書館ビル
電話 03-3567-1988 FAX 03-3567-4451 振替 00160-2-18410

モーセも、ヨセフも、
ルツも、ソロモン王も…

みーんな集まる、
3年目の絵本聖書。

はじめての聖書を、やさしく分かりやすい絵本で。毎月大人と子どもが一緒に楽しみ、
聖書の世界が広がると大好評の「みんなの聖書・絵本シリーズ」
いよいよ3年目、全巻36冊、完結に向かいます。

「読み聞かせ」
で楽しむ
絵本シリーズ

みんなの聖書 毎月発売 絵本シリーズ
2008年4月～2011年3月
定価各巻1,000円(税込) 全36巻
読み聞かせがますます楽しい。

『聖書 新共同訳』
準 拠

2010年5月発売
第26巻
「教会のはじまり」
画・杉田幸子

2010年4月発売
第25巻
「モーセものがたり」
画・藤本四郎

定価(各巻)：1,000円(税込) 2010年2月末現在、既刊23巻
天地250mm×左右210mm、上製本、オールカラー30ページ(解説4ページ)

「読み聞かせ」のための工夫、WEBページでご紹介しています。
http://www.bible.or.jp/main.html

お求めやすい 年間購読は 一時払い特別価格 9,800円(税込)です!

年間購読お申込みの方への限定プレゼント。
絵本シリーズ特製 ぬり絵ブック
★先着4,000名の方に!! 5月末まで受付中!
※デザイン写真は制作中のものです

本誌14ページに、3年目の発行予定が載っています。

■お求め、資料請求はお近くのキリスト教専門書店まで

財団法人 日本聖書協会 JAPAN BIBLE SOCIETY
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル
TEL 03-3567-1987 FAX 03-3567-4451 http://www.bible.or.jp

ホームページからもご注文いただけます(送料別途)

財団法人 日本聖書協会のホームページ
http://www.bible.or.jp

編集協力＝雑賀編集工房
デザイン＝株式会社 デザインコンビビア

印刷＝株式会社 高速オフセット

CONTENTS

SOWER No. 35 2010

2 ソア35号発行によせて
BS NEWS　渡部　信

3 特集
新しい聖書翻訳事業に向けて
翻訳部

8 聖書セミナー⑬　大田正紀
近代日本文芸と聖書

10 人物と聖書⑳　鈴木範久
中勘助と聖書

12 エッセー㉜　飯島　信
三四年ぶりの再会

14 Bible Guide
みんなの聖書
絵本シリーズ3年目の刊行予定／
マンガシリーズ

15 JBS情報
教会の幅広いご協力を求めて
イベントのご案内

16 手話訳聖書支援パートナーを求めています!

17 聖書図書館蔵書シリーズ㉝
レニングラード写本
ファクシミリ版 1998年

表紙の言葉
今回は熊本城をバックに満開の桜を描きました。日本の春＝桜ともいわれるくらい、日本人にとって桜は特別な花です。かくいう私も毎年の開花宣言にはわくわくしてしまいます。白色と淡い桃色のかすかな濃淡が織り成す満開の桜に筆をいれ、また春が来るのを待ち遠しく思っています。
（絵・文＝佐藤百合子）

Bible Verse & Essay by Masahiro Umemura

巻頭聖句

時が満ちると、
神は、その御子を女から、
しかも律法の下に生まれた者として
お遣わしになりました。
（ガラテヤの信徒への手紙４章４節）

カナの婚宴の時、イエスはマリアに向かって応えます。
「わたしの時はまだ来ていません」。
しかし、過越の祭りが近づくと、
「人の子が栄光を受ける時が来た」とおっしゃって、
自ら十字架への道を歩み始められます。
マリアの胎内に宿った神の御ひとり子は、
時が満ちて生まれ、やがて時が来て復活する。
こうして時は永遠のいのちを孕むようになりました。
「時」は過ぎ去るものではありません。
「時」はまさに満ちるものなのです。

梅村昌弘
うめむら　まさひろ
カトリック横浜教区　司教

新聖書の世界 34

写真／文
横山匡

ザアカイの登った木

エリコの町に、ひときわ大きな木が、鉄柵に囲まれて立っています。徴税人ザアカイが、イエスを見るために登ったいちじく桑の木だと伝えられています。枝を横に張る様子を見ると、登りやすい木だとわかりますが、現在のような大木になると、梯子なしで登るのは無理です。

預言者アモスは、「わたしは家畜を飼い、いちじく桑を栽培する者だ」（アモス七・一四）と言っています。小さないちじくのような実が無数になりますが、寄生蜂が中に産卵すると食べられなくなります。材は加工しやすく、防腐性があるので、古代エジプトではミイラを収める棺として用いられました。建材に乏しいイスラエルで、アモスは貴重な材木の生産業者でもあったのです。

「神は……いちじく桑を霜で枯らし」（詩七八・四七）とあるように、寒さに弱いため、エリコや海岸地方の温暖な土地でしか育たない木です。

ザアカイが木の葉の間から目を光らせながら、イエスさまが近づいてくるのを待っている様子を、日曜学校で先生がジェスチャーたっぷりに話してくださった時の情景が、この木の下に立つたびに懐かしく思い出されます。

The World of the Bible “The tree which Zacchaeus climbed” / Photo & Essay by Tadashi Yokoyama

特集

新しい聖書翻訳事業に向けて

2009年10月6日、第4回諮問会議
翻訳方針前文を答申として正式に承認し、
今後の展望について話し合った

翻訳部

2009年12月、日本聖書協会理事会は
新しい聖書翻訳事業の開始を決定しました。
この事業の決定に至る背景と今後の予定を、
ここに簡潔に記したいと思います。

●『新共同訳』に至るまで

一九世紀に日本へのプロテスタント宣教が開始されると同時に、聖書の日本語化への取り組みが始まりました。一八八七（明治二〇）年に出版された『文語訳』（明治元訳）は、キリスト教会のみならず、当時の日本の思想、文化の発展に大きく貢献しました。第二次世界大戦後は、国語教育の変化に対応して『口語訳』が出版されました。

これらの聖書はおもにプロテスタント教会で用いられてきたものですが、一九八七年に刊行された『新共同訳』は、プロテスタントとカトリックが共同で行った、期を画する事業の結実でした。多くの翻訳者が教派を超えて協力し、原典に忠実に、数々の困難を乗り越えて、長い年月をかけて完成したのです。

刊行後は、カトリック、プロテスタントの多くの教派で用いられ、また多数のキリスト教主義学校に採用されてきました。現在、日本の教会や学校で用いられている聖書のおよそ八割が『新共同訳』となっていますし、『新共同訳』の旧新約聖書および新約聖書の頒布数は、二〇〇八年までに累計一千万冊を突破しました。まさにプロテスタント、カトリックの違いを超えた共通の聖書として広く用いられているのです。

ソア35号発行に寄せて

ソアの2010年春号をお届けするにあたり、皆さまからの祈りとご支援に心から感謝申しあげます。さて、新しい年をどのようにお迎えになったでしょうか。

私は、最近、時があまりにも速く、刻々と変化していることを感じています。１年前と比べると、日本では政権が交代し、地球温暖化によってガソリンカーからエコカーへと時代は移り、世界的な不況の中で、中国、インド、ブラジルは目覚ましい経済成長を遂げています。世界は果たして今後どう変化していくのでしょう。日本聖書協会も、これから30年先を考えて準備しなくてはなりません。そこで、『聖書 新共同訳』の次の翻訳となる、新しい世代に向けた聖書を翻訳するべく、今年から作業を開始することになりました。

ＩＴ時代のただ中にある現代では、インターネットが自由に使え、パソコンソフトで翻訳や編集の作業を行えます。聖書協会世界連盟では独自の聖書翻訳ソフトを開発し、それを用いて各国の聖書翻訳がなされています。しかし、神の言葉が生きた言葉として読まれるためには、翻訳者と読者の信仰が正しく継承されていかなければなりません。そのためには、常に聖書に親しむ多くの人々のお祈りとご支援が必要です。どうぞこの聖書翻訳事業計画を覚えて、今後も日本聖書協会の活動をお支えくださいますようお願いいたします。

財団法人　日本聖書協会
総主事　**渡部　信**
わたべ　まこと

BS NEWS

「スペイン語圏に広がるバイブル・トーク」

2009年の秋にスペイン聖書協会へ寄り、スペイン語のバイブル・トーク200個を贈呈しました。その前年、200個贈呈したものが好評で、ぜひ新たに追加してほしいとの要請を受けたからです。スペインに本拠地を持つ盲人伝道協会が、目の見えない人にはバイブル・トークがいちばん便利だと高く評価してくださったのです。今はiPodなどの高機能なMP3プレーヤーが出回っていますが、録音聖書が本体に組み込まれているバイブル・トークは、手で触って簡単に操作できるため、カセットテープやCDと比べ、とても使いやすいとのことです。

このスペイン語のバイブル・トークがキューバに渡り、刑務所でも使われていると聞きました。本体が卵形なので凶器にならず、また聖書を聴く機能しかないため悪用されないという理由で、持ち込みが許されているそうです。その報告を聞いた私たちは驚くとともに、さまざまなネットワークを通じてカリブ海諸国まで日本聖書協会のバイブル・トークが用いられていることに神様の導きを感じました。

今、スペインは失業率20%と、ユーロ圏内でいちばん経済の落ち込みが激しく、たいへんです。けれども、街の中は若者が多く、活気にあふれていました。現地の日本人によると、スペイン人はくよくよせず、「すべては神様がどうにかしてくれるよ」という楽観的な人生観が身についているとのことです。

かつてはイスラム教勢力と戦って国土を奪還し、次いで海洋国としてアメリカ大陸を発見し、中南米にスペイン語圏を残したスペイン。現在は、中南米の人々にスペイン語聖書を通して福音が宣べ伝えられていることに、改めて深い感慨を抱きました。

（渡部　信）

スペインの盲人伝道協会
"Nueva Luz"（ヌエバ・ルス）の
局長（右）と

国際聖書フォーラム2006「今、聖書を問う。」より

2006年5月4日、ローレンス・デ・フリス氏
アムステルダム自由大学翻訳学教授
最新の翻訳理論であるスコポス理論について講演

2006年5月3日、クラウス・ヴァハテル氏
新約聖書本文研究所主任研究員
最新の新約聖書校訂本の特徴と進捗状況を報告

2006年5月3日、アドリアン・シェンカー氏
ビブリア・ヘブライカ旧約聖書第5版［BHQ］
刊行チーム総責任者
最新の旧約聖書校訂本の特徴と進捗状況を報告

● 新しい翻訳の必要性

しかしその『新共同訳』も、出版されてから二〇年以上が経ち、次世代のための聖書を考える時期に来ています。実際、過去の翻訳聖書は、時代とともに変化する日本語に対応して、約三〇年おきに改訳か新たに翻訳されています。

もちろん、日本語を新しくするだけではありません。今までの先達の労苦から十分に学びつつ、これまでの邦訳に対して頂戴した批判もしっかり受け止めた上で、より良い日本語の聖書を求めていかなければなりません。また、過去二〇年余りの間に、翻訳の元になるヘブライ語やギリシア語写本の研究が進んで、一歩ずつ原典に近づき、聖書学も発展して、聖書の意味もより明らかになってきています。また翻訳作業自体も、過去の経験からより良い翻訳理論や実践が積み上げられています。このような学問上の成果も取り入れることができます。また、聖書協会世界連盟が開発した翻訳ソフトウェアを用いることで、より早く、かつ統一性のある翻訳が可能となりました。

● 新しい翻訳のための準備

そこで日本聖書協会は二〇〇六年から、新しい翻訳事業の可能性を探り始め、翻訳理論や実践の研究を重ねてきました。また、広く一般の方々にも聖書について意識を持っていただくために、二〇六年と〇七年には「聖書フォーラム」を開催いたしました。その中でも、ヘブライ語とギリシア語聖書の新しい校訂本に関する講演、またアムステルダム自由大学翻訳学教授で聖書協会翻訳コンサルタントでもあるローレンス・デ・フリス博士による講演は、翻訳のために特に有益でした。

聖書協会の理事、評議員とは懇談会を三回開き、そこに京都大学名誉教授の水垣渉先生（「聖書的伝統における翻訳の問題」）、カトリック箕面教会の和田幹男司祭（「共同訳理念の継承、フランシスコ会訳との関わりについて」）、そして東京神学大学教授の近藤勝彦先生（「聖書翻訳と日本での宣教について」）をお招きして、翻訳に関する理解を深め、論議を重ねてきました。

二〇〇八年三月一二、一三日には、聖書翻訳ワークショップを日本ウィクリフ聖書翻訳協会と共催しました。アジア・大洋州地区ウィクリフ総主事の福田崇先生からは、翻訳文を何重にもチェックする大切さ、インドネシアで翻訳に携わる松村隆先生からは、たとえばロウソクの灯を台の上に置かずに梁から吊す文化ではどのように聖書を訳すのかといった現場の問題、学習院女子大学日本語学教授の福島直恭先生からは、日本語も必ず変化するものなので「乱れ」とは簡単に言えないことなどを学ぶことができました。

2007年10月25日、第2回理事評議員翻訳懇談会
和田司祭（写真）、近藤氏の講演から学ぶ

2007年3月22日、第1回理事評議員翻訳懇談会
水垣氏による講演と、スウェーデン、オランダの聖書翻訳の例から学ぶ

このワークショップには、二〇〇六年にお呼びしたデ・フリス博士に再度、講演に来ていただきました。従来、聖書翻訳においては、動的等価（意訳のような考え方）と直訳に近い翻訳が対立的に捉えられてきました。しかし、そのような翻訳方針の違いは、どちらが良いという問題ではなく、翻訳聖書が誰のために（聴衆）、何のために使われるのか（機能）の違いによって生じるのだと整理してくださいました。また、原典の意味を解く聖書学者と、それを良い日本語にする翻訳者という二者の役割の違いも整理してくださいました。デ・フリス氏の講演によって、今後の聖書翻訳事業の基礎となる重要な枠組みが提供されたと言えるでしょう。

● 諮問会議

日本聖書協会の翻訳事業は、諸教会に用いられ、また広く社会にみ言葉を伝えるために行われてきました。そのため、個人訳を採用せず、委員会訳と呼ばれる共同による翻訳作業を行ってきました。一個人の好みや解釈に左右されず、さまざまな要素を考慮して、できるだけ多くの視点からの確認が必要とされるからです。

また、日本聖書協会は二〇〇八年六月、国内の三〇の諸教派と団体に対して、代表を送っていただき新しい翻訳の可能性について話し合っていただくようお願いしました。これも、広く諸教会に仕えるという聖書協会の伝統的立場に沿うものです。そのうち、カトリックを含む一八の諸教派、団体が応答して議員を派遣してくださり、二〇〇八年の一〇月から四回にわたって諮問会議が開催されました。

二〇〇九年一〇月六日に持たれた、最終回となる第四回諮問会議では、本稿末尾に掲載した「翻訳方針前文」が採択され、日本聖書協会理事会に答申されました。二〇〇九年一二月四日の理事評議員会では、この前文に基づいて新しい翻訳事業を行うことが決議されました。この前文は、新しい翻訳事業の憲法にあたるもので、今後の翻訳事業はこの前文に基づいて行われることになります。

この前文を考案し採択した一八の教派、団体の信徒数は、日本国内のクリスチャン人口の七五・三%をカバーしています（『キリスト教年鑑』

二〇〇九年度版）。つまり、この諮問会議は日本のキリスト教会をほぼ代表し、この前文に表現されている翻訳聖書は、諸教会によって求められている聖書と言えるでしょう。教派を超えた日本の標準訳となることが望まれています。

●今後

今後は、翻訳者が同一の方針に沿って作業を進められるように、また翻訳から出版まで一貫した方針で事業を進めるために、翻訳方針前文を基に具体的な翻訳上の方針を定めます。そして、諸教派団体から推薦される翻訳者を中心に翻訳を開始します。

今回の翻訳事業の特徴の一つは、聖書協会世界連盟内で促進されている新しい方針を採択している点です。今までの翻訳は、ヘブライ語、ギリシア語という原語を理解する方々を中心に翻訳がなされ、それを最終的に日本語の専門家がチェックするという方法でなされてきました。しかし、今回の事業では、原語担当者と日本語担当者が最初から二人三脚で行います。原語担当者は原典の意味を明らかにし、日本語担当者はそれをより良い日本語にするというもので、より効率よく、良い日本語の翻訳がなされると期待されます。この方式は、二〇〇四年に刊行されて成功を収めた最新のオランダ語聖書にも用いられました。

原語担当者と日本語担当者が作成した訳文は、朗読にふさわしいかどうかをチェックする朗読チェックを受け、多くのモニターによる意見を吸収し、諸教派の意向を考慮し、聖書学や教義学等の専門家からの批評によって改訂されて、最終的な訳文に至ります。

このたびの翻訳聖書は、次頁に掲載する前文にあるように、日本の教会の標準訳聖書となり、礼拝での朗読にふさわしい格調高く美しい日本語訳を目指すだけでなく、将来にわたって日本語、日本文化の形成に貢献できることを目指しています。このような高い目標を達成するには、多くの方々のご理解とご支援に加え、神ご自身のお働きを求める祈りが不可欠です。これから開始されるこの新しい翻訳事業のために、ご支援、ご祈援いただきますよう、お願い申し上げます。

2008年3月13日、聖書翻訳ワークショップ
（左から）松村氏、福田氏、デ・フリス氏のパネル・ディスカッション

2008年10月13日、第1回諮問会議
新共同訳についての諸問題や今後の展望全般について語り合う

2009年3月6日、第2回諮問会議
プロテスタントとカトリックの共同訳事業とすることなどを決定

2009年5月21、22日、第3回諮問会議
新しい翻訳聖書の主な読者と使用目的などを含む翻訳方針前文を作成

翻訳方針前文

近代日本における福音宣教の開始後、聖書はいち早く日本語に訳された。それは教会の正典として用いられただけでなく、言語、文学、思想など、日本文化全体の発展にも貢献した。過去の聖書協会による邦訳聖書刊行だけを見ても、『明治元訳』（一八八七年）の後、『大正改訳』（一九一七年）、『口語訳』（一九五五年）、『新共同訳』（一九八七年）と、およそ三〇年おきに改訂あるいは新訳がなされている。翻訳作業に一〇年かかるとすれば、『新共同訳』が刊行されて二〇年が過ぎた現在、聖書の新しい訳が検討されるべき時期が来ていると言えよう。実際、過去数十年間に生じた聖書学、翻訳学などの進展、底本の改訂、日本語や日本社会の変化、また『新共同訳』見直しへの要請が、新しい翻訳を求めている。

新しい聖書翻訳は、

（1）共同訳事業の延長とし、日本の教会の標準訳聖書となること、また、すべてのキリスト教会での使用を目指す。

（2）礼拝で用いることを主要な目的とする。そのため、礼拝での朗読にふさわしい、格調高く美しい日本語訳を目指す。

（3）義務教育を終了した日本語能力を持つ人を対象とする。

（4）言語と文化の変化に対応し、将来にわたって日本語、日本文化の形成に貢献できることを目指す。

（5）この数十年における聖書学、翻訳学などの成果に基づき、原典に忠実な翻訳を目指す。底本として、旧約（ＢＨＱ）・新約（ＵＢＳ第5版）・旧約続編（ゲッティンゲン版）など、最新の校訂本をできる限り使用する。

（6）文学類型の違いを訳出して原典の持つ力強さを伝達する努力はするが、聖書が神の言葉であることをわきまえ、統一性を保つ視点を失わないこととする。固有名詞や重要な神学用語については『新共同訳』のみならず、過去の諸翻訳も参考にして、最も適切な訳語を得るようにつとめる。

（7）その出版に際して、異読、ならびに地理や文化背景などを説明する注、引照聖句、重要語句を解説する巻末解説、小見出し、章節、地図や年表、などの本文以外の部分は、できる限りさまざまな組み合わせを考え、読者のニーズに応える努力をする。

諮問会議議員（団体名順）

ウェスレアン・ホーリネス教団　黒木安信
キリスト教学校教育同盟①　寺園喜基
キリスト教学校教育同盟②　山本真司
沖縄バプテスト連盟　喜友名朝順
基督兄弟団　池本　潔
救世軍　平本　直
在日大韓基督教会　朴寿吉
聖イエス会　辻田協一
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団　川上良明
日本カトリック司教協議会①　下窄英知
日本カトリック司教協議会②　岩本潤一
日本キリスト改革派教会　三野孝一
日本キリスト教会　三好　明
日本ナザレン教団　石田　学
日本バプテスト同盟　山本富二
日本バプテスト連盟　濱野道雄
日本ルーテル教団　柴田千頭男
日本基督教団①　内藤留幸
日本基督教団②　中野　実
日本聖公会　輿石　勇
日本福音ルーテル教会　鈴木　浩

近代日本文芸と聖書

鷗外・透谷・藤村・漱石・龍之介

大田正紀
おおた　まさき
梅花女子大学教授

現代キリスト教文芸の興隆

昨春、『国文学　解釈と鑑賞』（二〇〇九年四月号）が「現代作家と宗教――キリスト教編」を特集した。柘植光彦氏は、プロテスタント作家として椎名麟三、福永武彦、金子光晴、城山三郎、三浦綾子、阿部光子、重兼芳子らを挙げ、カトリック作家には遠藤周作・井上洋治神父山脈の安岡章太郎、三浦朱門、矢代静一、加賀乙彦らのほか、島尾敏雄、小川国夫、高橋たか子などがいるとする。

カトリック文学が隆盛を極めているのは、強烈な体系を持っていることと、護教より文学的達成を目指しているからだという。今回列挙されたキリスト教、ユダヤ教、聖書的世界を題材とする現代作家群像は壮観である。

近現代日本文芸と聖書

笹淵友一氏は、キリスト教が近代文学に果たした影響を高く評価し、明治・大正期の文学はプロテスタント、昭和期の文学はカトリックが主導的な働きをしていると指摘する。たしかに明治・大正期の文学を見ると、北村透谷をはじめ、島崎藤村、国木田独歩、岩野泡鳴、志賀直哉、有島武郎、正宗白鳥などは、プロテスタント教会で洗礼もしくは信仰告白をなし、熱心な求道生活を送っている。ところが、キリスト教信仰を捨てるところから文学者として出発している。もっとも、白鳥のように信仰を伏流のように持続した者もいるが。

なぜこのような離反者・背教者を多く輩出したのか。植村正久や内村鑑三に代表されるピューリタンの生活態度と倫理観の高さは、近代日本を築き上げてゆこうとする青年たちにとって、新鮮かつ根源的な力を与えた。だが、接ぎ木された武士道や儒教倫理だけでは、青年たちの「性愛」「富の分配」「職業」等の問題は、切実で困難な課題であった。

結婚の意義から説き起こして、性愛の祝福を教えていれば、霊肉二元対立の悪しき葛藤に苦しむことはなかった。経済倫理、職業観も十分には教えられなかった。近代の文学者のキリスト教受容は、自己絶対化のロマン主義やヒューマニズムを重層的に受け入れたため、根本的な自己否定がなされていず、創作者として生きようとした時、信仰は倫理的に束縛を与えても、「新生」された人間による新しい文化創造など願うべくもなかった。

むしろ教会の外にいると思われた二人の文豪にキリスト教の受容の痕跡が認められる。幼い頃に津和野藩で行われた浦上四番崩れの信徒たちの殉教を目の当たりにした森鷗外の著作と思索の中に、聖書の「献身」が生命化されている。また、漱石の中期作品には、ダビデの詩編が罪意識の深化として描かれ、晩年の『硝子戸の中』にはアウグスチヌスの『告白』に通底する贖罪が祈念されている。

北村透谷

北村透谷（とうこく）は最初、自由民権運動に参加していたが、貧農の窮状を救うことができず、失意と煩悶に苦しんでいた時、石阪美那（みな）と出会い、転機が訪れる。民権運動家、石阪昌孝の長女の美那は、横浜共立女学校在学中にキリスト教信仰に導かれ、一八八六年、横浜海岸教会で洗礼を受けていた。暴力や一揆によらず歴史を正しく導かれる「神の力」によって日本を変えていきたいと考えた美那の人格への敬愛から透谷は回心に導かれ、日本基督一致教会・数寄屋橋教会（現・日本基督教団巣鴨教会）で田村直臣牧師から洗礼を受け、美那との結婚式も挙げる。

『楚囚之詩』『蓬莱曲』などの詩作のほか、恋愛と結婚の悲歌「厭世詩家と女性」を『女学雑誌』に、山路愛山の文学＝事業論に反駁した「人生に相渉るとは何の謂ぞ」、世俗の権威や既成概念を否定して、すべての人間に必ず備わっている神聖な魂の座を尊重すべきだと説いた「内部生命論」などの評論を『文學界』に発表した。主宰者の星野天知は結婚を機に文学を放棄しカトリックに改宗し、夫人が学監を務める宝塚の小林（おばやし）聖心女学校の経営を支え、書家としても活躍した。

透谷は、明治女学校や普連土女学校の講師をする傍ら、メソジストやフレンド派の宣教師の通訳・翻訳を務めた。日清戦争前夜、反戦運動の団体「日本平和会」の設立にも関与している。透谷は最後、ファンダメンタルのクリスチャン教会D・F・ジョンズの通訳となり、麻布クリスチャン教会に転会し、一関や花巻に伝道も行っている。

一八九四年、心身の不調から自殺を遂げた。原因としては、キリスト教伝道、平和運動の行き詰まり、結婚生活の破綻が挙げられる。藤村の『春』では、透谷は愛する者の死の痛手から立ち直ることができず、再び遊蕩の倫理的に赦されない罪を犯し自裁した、と書く。

妻美那は終生、晩年の透谷について沈黙を守り、藤村がピューリタニズム批判の文脈の中で透谷像をゆがめたことに不快感を持っていた。わずかに透谷のキリスト信仰は揺らいでいたが、死の間際まで「心を貧者に向け」ていたと証しする。透谷没後、渡米し、デファイアンス・カレッジを卒業。帰国後は府立高等女学校の英語教員として教壇に立つ。遺児英子を育て上げ、麻布クリスチャン教会（現・日本基督教団聖ヶ丘教会）の信徒として信仰を全うした。

一九九二年、北村透谷研究会が発足して目覚ましい研究成果を輩出し、悲憤慷慨の可能性の文学ではなく、確固とした世界観・平和観を持つ新しい透谷像が刻まれつつある。しかし、今まで俗流史家と裁断されてきた山路愛山の文学事業論の再評価こそ、クリスチャンに迫られているように思う。「文学とは誰のためにあるのか」「わたしたちは日本の建設にどのような貢献ができるのか」を問うていくためにも。

※本稿は、二〇〇九年九～一〇月にクリスチャンセンター神戸バイブル・ハウスで開かれた「第41回聖書セミナー」の講義内容から、本誌のために改めてご執筆いただきました。

ヨセフ物語に泣いた 中勘助と聖書

鈴木範久 すずき のりひさ 立教大学名誉教授

若きキリスト教信徒たち

中勘助の名著『銀の匙』は、今なお多くの人々により愛読されている。すでにその中に、幼い主人公が絵を描く場面を、ユダヤの神の天地創造にたとえる表現がある。詩人でもあった中勘助の詩にも、聖書を題材としたものが数編ある。

昔ガリラヤの小邑ナザレの工匠の子
ヨルダンの流に水あびて貴き幻をみたり

で始まる「耶蘇」をはじめ、「受胎のおつげ」、「サロメの舞の歌」、「ゲッセマネ」、「ルツ」などである。

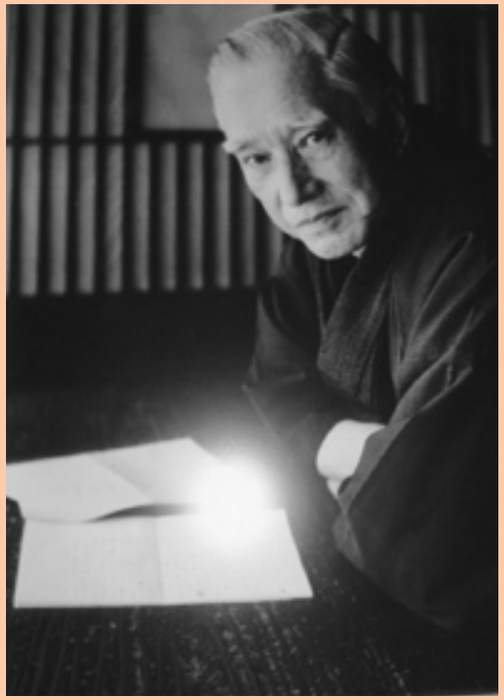
実は、中勘助の周辺には、いわば勘助塾と称してよいほどキリスト教を信仰する青年たちが集まっていた。彼らと勘助との交流は日中戦争中に始まり、その後、青年たちは戦地に派遣された。そして、復員後も両者の交流は変わることなく続いた。そのなかには、のちに『朝日新聞』記者として三浦綾子の『氷点』にかかわる門馬義久、病院長および沼津市長として活躍する庄司辰雄、詩人であるとともに伝道者として一生を送る塩田章らがいた（くわしくは拙著『中勘助せんせ』岩波書店）。

「鳩の話」

そのなかの一人である塩田章に勘助から、新約聖書マタイ伝第五章四―九節ほかの部分を「現代の口語」訳にする依頼があった。当時、勘助の手元にあった聖書は、いわゆる文語体の「明治元訳」である（後述）。単なる口語訳だけなら、国文科出身の勘助だから簡単な仕事にちがいない。それを若き塩田に頼んだわけは、塩田の信仰に一目置いていたからにちがいない。

さっそく塩田は訳稿を作成、勘助に届けた。これは、やがて刊行された『鳩の話』（岩波書店）に用いられる。この作品は、鳩を語り手としたキリスト伝である。その鳩たちは、ヨルダン川におけるキリストの「行水」にも立ち会い、キリストの上方を飛びまわっていると、「聖霊」に間違えられる。のちに油断して商人につかまり、祭りのいけにえとして売られようとしているとき、キリストに助けられる。

これまでこの作品が、日本ではキリスト教文学作品として真正面から論じられたことはなかったのではないか。ここに述べた鳩を語り手とした発想といい、実に日本とキリスト教を考えるうえで示唆に富む作品である。



「鷹の話」

勘助が『銀の匙』に代わるものとして、長い間にわたって書きつづけてきた作品が、一連の鳥の物語である。これは生前にもいくつかをまとめて『鳥の物語』として出されたが、全作品の半分ほどだった。すべての話を収めた書物は、没後にまとめられた『鳥の物語』（岩波文庫）である。後者のなかに「鷹の話」がある。

「鷹の話」は、旧約聖書の創世記にあるヨセフ物語によっている。同じく鷹を語り手とし、鷹はやはり、ヨセフの危機や転機のつど登場し、ヨセフに協力したり彼を助ける役を演じている。勘助は、旧約聖書でヨセフ物語をはじめて読んだとき泣いたが、のちに「鷹の話」を書き、その作品の校正をしながらまた涙を流している。旧約聖書のヨセフ物語を読んで泣いたうえ、それにもとづく自作の校正をしながらも泣いた作家をほかに知らない。そのとき、勘助の用いた聖書とみなされるものが『引照 旧新約全書』（米国聖書会社、一九〇四年）である。

新「出エジプト記」

勘助が一九二四年に書いた小品に「貝桶」がある。千葉県岩井の海岸に滞在中の随筆である。岬の根もとに、波の寄せ具合で貝殻の溜まる所があった。勘助はそこが気に入り、美しい貝拾いに夢中になる。いつの間にか、思いはモーゼの出エジプト時の紅海の干潟にとぶ。そこにも美しい貝の輝く所があった。モーゼの一行が貝拾いに夢中になっていると、たちまちパロの軍勢が追いつく。

しかし勘助は、ここで次のような新「出エジプト記」を描いている。

パロとモーゼと互いにいいひけるは、
見よ、我らはかかる美しき貝を得たり。
我らの胸は喜に充てり。いざ、我らここによしみを結びて我らの神をたたへんと。かくてイスラエルの人人埃及の人人と手をとりてこの歌を謡ふ。

エッセー 32

三四年ぶりの再会

飯島信

エルベ川を背に

三四年前の一一月初め、私はハンブルグ郊外を流れるエルベ川のほとりの散歩道を歩いていた。スイスのレマン湖を望む会議場での、エキュメニカルな（教派を超えた）キリスト者との交わりから始まった五〇日にわたる旅先での出来事だった。

晩秋のエルベ川は、灰色の流れの中にも、何か郷愁を呼び起こさせるものがあった。会議が終わったその時から、仲間と別れ、心細さを抱えながらの一人旅となったが、訪れる先々での新しい友との出会いは楽しく、また喜びだった。

スイスからドイツのハイデルベルク、フランクフルト、東ベルリンから西ベルリン、そして再び東ベルリンを経てハンブルグへと至る列車の旅は、遠い記憶の先に、それでも鮮やかな思い出を残している。フランクフルトの小さなペンションで出てきた朝食のパンとバターのあまりの美味しさ！　列車の窓から見える東ベルリンの風景は灰色の色彩で単調だったが、それに比べ、西ベルリンに入った瞬間に目に飛び込んできた色彩の豊かさ！　そして、ハンブルグ郊外の林に入ると、一面に敷きつめられた、夕陽に輝く落ち葉の絨緞（じゅうたん）など、それらの経験は私の胸に思い出として豊かにふくらんでいる。

ドイツの旅を終えた私は、オランダのアムステルダムに向かった。オランダ航空でケニヤのナイロビに入るためである。アムステルダム駅に着いた時は、午後もかなり遅かった。夕暮れが迫る中、予約なしに飛び込みで宿泊先を決める困難さや、英語が通じない中で食べ物を口に入れる大変さを味わいながら、着いた日の夕食は結局、オランダの子どもたちが買って食べていたのと同じフライドポテトだけだった。

次の日、アムステルダムからどれほどの時間がかかったのだろう。途中、飛行機がエジプトのカイロで給油した後、ナイロビに着いた時には、もうとっぷりと日が暮れていた。ここに来たのは、それから約一カ月間、WCC（世界教会協議会）第五回総会のスチュワード（青年奉仕者）として過ごすためである。

ナイロビの街並みは驚くほど綺麗だった。まるで、時には銀座を歩いているようにすら思えた。そして、総会の会議場となったケニヤッタ国際会議場。ケニヤの大統領の名前を取って造られた、これもまた見事な設備を誇るものだった。この地での経験の何もかもが、これまでアフリカに対して私が抱いていた無知と偏見を根底から覆していった。

しかし、会議も半ばを過ぎた頃、次第に別の風景が会議場周辺に現れ始めた。それは、足に障がいを持って歩けないため、板に車をつけただけの台に乗り、手で地面を押しながら移動してくる物乞いたちの姿だった。会議が始まった当初は郊外に追いやられていた彼らが、時間が経るにつれて街中に戻ってきたのである。鮮烈な印象だった。総会や分科会での白熱した討論、しかも、この第五回総会の主題「イエス・キリストは自由にし、一つにする」は、キリスト教の人権への関与や、他宗教やキリスト教以外のイデオロギーに生きる人々との対話が熱い争点となっていたからである。

それから三四年、二〇〇八年の秋、香港で行われたある会議で、私はWCCのコビア総幹事と一緒になった。そして、お互いの挨拶の中で、二人はあのナイロビ大会に参加していたことが分かったのである。彼はケニヤの青年代議員として、私はスチュワードとして……。私たち二人は、あのナイロビのケニヤッタ国際会議場で、おそらく何度もすれ違ったに違いない。私にとって初めてのエキュメニカル運動との出会いの場となったナイロビ総会から三四年、二人は共にエキュメニカル運動の中に身を置いていたのである。

飯島　信（いいじま・まこと）
日本キリスト教協議会総幹事

教会の幅広いご協力を求めて

昨年12月4日に、日本聖書協会理事・評議員・監事の改選が行われました。
今回、新たなメンバーとして評議員になられた5名の方々をご紹介いたします。

新評議員
布川 悦子
ふかわ　えつこ

1957年生まれ
神奈川県在住
聖公会神学院講師

新評議員
木下 宣世
きした　のぶよ

1942年生まれ
千葉県在住
日本基督教団
西千葉教会牧師

新評議員
小田島 幹彦
おだじま　みきひこ

1952年生まれ
神奈川県在住
日本アッセンブリーズ・
オブ・ゴッド教団篠原教会主任牧師
同教団理事

新評議員
立野 泰博
たての　やすひろ

1960年生まれ
東京都在住
日本福音ルーテル教会
事務局長

新評議員
石田 学
いしだ　まなぶ

1953年生まれ
栃木県在住
日本ナザレン神学校教授
日本キリスト教協議会教育部理事長

任期：
2010年1月～ 2011年12月

日本聖書協会は、混迷の時代にあってさまざまな課題を前にしており、多くの皆様のご理解とご協力を必要としております。今後も理事、評議員、監事、そして事務局一丸となり、働きを進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

イベントのご案内　聖書と音楽の出会い

沖縄
日時：2010年4月10日（土）
午後1時半～ 3時半
（開場1時）
会場：浦添市てだこホール
（小ホール）
出演：ジョン･チャヌ氏
（ヴァイオリニスト）

大阪
日時：2010年4月24日（土）
午後1時半～ 3時半
（開場1時）
会場：オーバルホール
（毎日新聞ビルB1）
出演：ジョン･チャヌ氏

山梨
日時：2010年6月12日（土）
午後1時半～ 3時半（開場1時）
会場：山梨県立県民文化ホール（小ホール）
出演：久米小百合氏
（教会音楽家、聖書協会親善大使）他

岡山
日時：2010年6月26日（土）
午後1時半～ 3時半（開場1時）
会場：ルネスホール（旧日本銀行岡山支店）
出演：久米小百合氏

時間等は変更になることもありますので、詳しくは広報部（TEL 03-3567-1988　メール：info@bible.or.jp）へお問い合わせくださるか、ホームページ（http://www.bible.or.jp/）のイベント情報をご覧ください。各イベントごとに、お申込みが必要となります。

みんなの聖書 絵本シリーズ 3年目の刊行予定

みんなの聖書 毎月発売 絵本シリーズ
2008年4月～2011年3月
定価各巻1,000円（税込）全36巻
読み聞かせがますます楽しい。

3年目発行予定（2010年4月～2011年3月）太字は旧約、細字は新約です

㉕ **4月　モーセものがたり～エジプトからのがれて～**
モーセはイスラエルの民を率いて、エジプトを脱出します。

㉖ 5月　教会のはじまり～ペンテコステ～
イエスさまが天に上った後、弟子たちは人々にイエスさまの福音を伝え始めます。

㉗ **6月　大臣になったヨセフ**
兄さんたちに売られたヨセフは、奴隷としてエジプトに連れてこられます。

㉘ 7月　ザアカイと金もちの若者
りっぱな金持ちの若者と嫌われ者のザアカイ。そんな2人にイエスさまは…。

㉙ **8月　エリコのかべ～やくそくの地へ～**
約束の地を目指すイスラエルの民。彼らの前にエリコの城壁が立ちはだかります。

㉚ 9月　神さまの国～イエスさまのたとえ話～
「神さまの国は子供のような人たちのものです…」イエスさまは話し始めました。

㉛ **10月　あなたについていきます～ルツのものがたり～**
夫に死なれお母さんと2人きりになったルツ。食べ物を探しに麦畑に行きますが…。

㉜ 11月　おきて歩きなさい～イエスさまのいやし～
イエスさまの一言で、悪霊につかれた人も、病気の人もいやされます。

㉝ 12月　羊かいの夜～クリスマス（3）～
暗く静かな夜のこと、野原で羊飼いが羊の番をしていると…。

㉞ **1月　ソロモン王のちえ**
神さまから授けられた知恵によって、ソロモンはイスラエル王国を繁栄に導きます。

㉟ 2月　生まれかわったパウロ
キリスト教徒を迫害していたパウロ。ある日旅の途中、天から声が聞こえてきて…。

㊱ 3月　せかいは新しくなる
創世記から黙示録まで。旧・新約聖書をつらぬく壮大な救いの物語。

久米小百合氏
（教会音楽家・日本聖書協会親善大使）

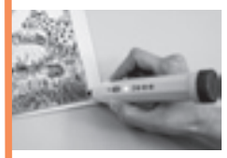
お勧めします

絵本って不思議です。子どもは、絵本を数回読んであげるだけで文字を知らなくても文章をスラスラ言えるようになったり、描かれた風景や人物の喜怒哀楽の表情や、おいしそうなお菓子の色や形を、それが本のどの辺りにあるかも一緒に、すぐに覚えてしまいます。そして、それらの断片は何十年経っても忘れず、人生で探す何かのきっかけになっていることさえあります。聖書の世界もそんな風に、子どもたちの小さな胸に届き、いつまでも残っていたら素敵ですね...

「音筆（おんぴつ）」にも対応

音筆対応

絵本の音声データを内蔵した音筆も好評発売中です。「音筆」で絵本の見開き番号にタッチするだけで、そのページの朗読をクリアな音声で聴くことができます。まだ文字を読むことのできないお子さまが、ひとりでも絵本聖書を楽しめます。データを差し替えることで、3年分36冊の朗読をご利用いただけます。



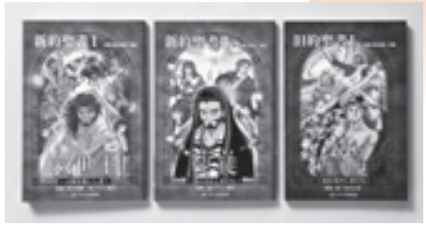
朗読：
久米小百合さん
定価：
15,750 円（税込）

音筆についての情報は日本聖書協会のホームページをご覧ください。
http://www.bible.or.jp/onpitsu/

絵本聖書対応音筆をお持ちの方に、2年目以降（2009年4月～2011 年3月分）の音筆データを無料で追加します。お持ちの音筆付属のSDカードを、日本聖書協会・頒布部宛にお送りください。折り返し新しい音筆データを追加してお届けします。詳しくは頒布部（03-3567-1987）までお問い合わせ下さい。

みんなの聖書 マンガシリーズ

オールカラー
天地210×左右140mm
各巻 1,050円（税込）



新約聖書編　全2巻
「**救世主（メシア）**――人類を救いし者」
「**使徒（アポストロス）**――遣わされし者たち」

旧約聖書編　全3巻
「**創世（ジェネシス）**――光を受けし者たち」
「**王国（キングダム）**――国を建てし者たち」

聖書の世界を身近なものにしてくれる、
マンガシリーズ。
今年秋には　**旧約聖書編 第3巻**
「預言者（プロフェット）――希望を告げし者たち」
も発売の予定です。

聖書図書館蔵書シリーズ——㉝

レニングラード写本

（ファクシミリ版 1998 年）
縦：34cm　横：29cm

「マソラ」とはヘブライ語で「伝承」「伝達」を意味する。ここから「マソラ本文」という呼称が生まれた。ベン・アシェルは、マソラ学者の中で最も有名な家系。

イザヤ書 52 章 13 節〜 53 章 12 節

マソラ学者のベン・アシェル家が伝えたもので、ヘブライ語聖書本文が全部揃っている最も重要な綴じ写本の一つ。

奥付によると、1008年にカイロで筆写された。

『聖書 新共同訳』旧約聖書の翻訳底本である『ビブリア・ヘブライカ・シュトットガルテンシア』は、このレニングラード写本をもとにしてできたものであり、今日の大多数の聖書翻訳はレニングラード写本を底本として用いている。

記号Lで略記されることもある。

サンクトペテルブルグのロシア国立図書館に所蔵されている。略号はFirkovich B19A。

聞こえない方の心に福音をお届けするために

手話訳聖書支援パートナーを求めています！

共に手話訳聖書の完成を目指しましょう！

生まれて初めに覚え、日常使う言語を「母語」と言いますが、日本で生まれ育ちながら、いまだに母語の聖書を持たない方々がおられるのをご存じでしょうか？ 生まれつき耳の聞こえない方、あるいは幼児期に聴力を失った方の多くは、「手話」を母語にされています。日本語は、「聞く」という経験のないまま学習して覚える第二言語なのです。手話を母語とされている方々には、「手話の聖書」が必要です。手話訳聖書が1日も早く完成するように、パートナーとなっていただき、お祈りとご支援をお願い申し上げます。

★1口10,000円の年会費で完成までお支えいただきます。

旧・新約全巻の手話訳は15年にもわたる大事業であり、世界のどこでもまだ達成されていません。完成のために継続的なご支援をぜひお願いいたします。

★パートナー様には手話訳聖書DVDをお届けいたします。

お申込み時には既刊の手話訳聖書全14巻をプレゼント。そして今後新しい手話訳聖書DVD発刊のたびに、2枚ずつ無料でお届けいたします。どうぞ手話研究に、手話の礼拝・集会にご活用くださり、ご意見をお聞かせください。

手話訳聖書DVD

※VHSの販売は2010年3月をもって終了となります。

現在までに発刊された『手話訳聖書』 すでに10書14巻が完成し、頒布されています。

- 創世記1〜15章
- 創世記16〜22章
- 創世記23〜28章
- 創世記29〜35章
- 創世記36〜42章
- 創世記43〜50章
- ヨナ書、ルツ記
- マルコによる福音書
- 使徒言行録1〜14章
- 使徒言行録15〜28章
- ガラテヤの信徒への手紙
- フィリピの信徒への手紙
- テサロニケの信徒への手紙 一・二
- ヤコブの手紙

JAPAN BIBLE SOCIETY
財団法人 日本聖書協会 募金部

〒104–0061 東京都中央区銀座4–5–1
TEL 03–3567–1980

パートナーへのお申込みには、綴じ込みの申込み用紙をご活用ください。

郵便振替 00160–2–18410
銀行振込 三井住友銀行 京橋支店（普）6552744
口座名： ㈶日本聖書協会

ホームページからもお申し込みいただけます。
アドレス▶ http://www.bible.or.jp/collection/col02.html

Sign language translation Bible

編集後記

昨年の日本プロテスタント宣教一五〇周年記念大会では、現役牧師としては最高齢一〇一歳の大嶋常治牧師と、一九八四年生まれの若い佐々木哲也牧師が証しされ、それぞれ将来の日本宣教に対する熱意が語られたことが印象的でした。戦後の貧しい時代に一日何十キロも自転車で伝道された大嶋師。教会のＢＢＱ大会にクラスの高校生らが連鎖的に友達を誘って、福音が広がったと語る佐々木師。お二人が生きてきた時代も伝道の方法も違いますが、宣べ伝える福音はひとつ。それは聖書に書かれたみ言葉であることを強く感じました。

日本聖書協会も、聖書を翻訳し、出版・頒布し、世界に聖書を普及させる目的で皆さまのお祈りとご支援をいただき、今年一三五年目を迎えました。今号は、一九八七年の発刊以来、日本で最も多くの教会と学校で愛されている『聖書 新共同訳』に続く、新しい時代へ向けた聖書翻訳がいよいよスタートするのに伴い、特集記事を掲載しました。

この新しい翻訳事業が神の御旨にかない、あらゆる世代の教職・信徒・一般の方々に受け入れられ、日本における宣教がますます進展してゆくことを心から祈る次第です。どうぞ心を合わせてお祈りいただければ幸いです。